

2015年度大会 エクスカーション報告

著者	池嶋 美佳
著者別表示	Ikejima Mika
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	64
号	1
ページ	31-32
発行年	2016-09
URL	http://doi.org/10.24517/00053295



2015年度大会 エクスカーション報告

2015年度のエクスカーションは、島根半島の桂島で行われた。5月31日（日）午前9時ごろに、島根県出雲市ひらたメイプルホテルに集合した。参加者は33人であった。各自が車に乗り合わせて出発した。天気予報によると、エクスカーション当日の天候はあまり良くないとのことだった。しかしみなさんの植物探求への想いが天に通じたようで、前日とは違って変わって、この日は絶好の植物観察日和であった。私が思うに、雨具を持って来てしまったことへの後悔ほど、ありがたい後悔はない。赤瓦の民家、のどかな田んぼ道、石川県ではなかなか観ることができないアブラギリの白い花々を車から楽しみながら、私はまだ見ぬ島根半島の植物や自然との出会いに思いを馳せた。

午前10時ごろに、同県松江市島根町加賀の県道近くの駐車場に到着した。そこから歩いて桂島に向かった。桂島は島根半島の一部であり、大山隠岐国立公園に指定されている。島にはそこでキャンプを楽しむ人々や、ボッカ（隠岐や出雲の言葉で、いわゆるカサゴ）を釣るのに熱心な人々がたくさんいた。普段、能登の荒波に慣れているせいか、島根半島の海はとても穏やかでどこかで、たいへん良いところという印象を受けた。桂島では、三浦憲人さん（ホシザキ野生生物研究所）や井上雅仁さん（三瓶自然館）に案内していただいた。

島全体は照葉樹で覆われていた。トベラ、ヤブツバキ、ハマヒサカキ、クロマツ、スダジイ、タブ、アカガシ、アカメガシワ、マサキ、マルバグミなどが確認された。土壌は主に岩場で、オニヤブソテツ、ツワブキ、ヒョドリジョウゴ、カワラヨモギ、ハマツメクサ、オカトラノオ、テリハノイバラ、ハマビワ、キジカクシ、ミヤコグサなどが確認できた。特にハマボッサ、ミヤコグサ、ハマダイコン、ハマヒルガオなどがきれいに咲き誇っていた。また色鮮やかな黄色で岩場をにぎわせていたのがタイトゴメである。これに似たメノマンネングサとの違い（葉の形態等）を教えていただいた。

また、シロウマアサツキがちょうど花期で、島根半島の美しい海岸に負けず劣らず可憐に咲き誇っていた。みなさんがこれの虜になって写真を撮っていた。以前私は能登でアサツキを観たが、その花はライラックのようなやわらかな紫色だったが、シロウマアサツキはさらにそれを明るくしたような紫色だった。またこれは普段高山に生育する種であるにも関わらず、海浜に生育していた。このような種が島根半島や隠岐には多いらしい。自然は人間には解明できないような面白いことがまだまだたくさんあるようだ。植物の分布は特に不思議であると日ごろから思っていたが、それを実感した。

セリ科はハマウド、ヤブニンジン、ハマゼリが確認できた。ハマウドは能登でも生育しているがこちらのほうが元気そうだった。ハナウドもあるかと期待していたが無かったので、少し残念だった（もしこれを読んでいる方でセリ科の情報をお持ちでしたら是非教えてください）。

また、今回我々は桂島の地質も観察することができた。安山岩や玄武岩の溶岩や火砕流堆積物と、海底土石流堆積物は交互に幾重にも重なり、膨大なものであった。それらの中にはメノウ（石英石）も確認できた。このメノウがまが玉になるらしい。さすが出雲信仰や国引き神話の地、島根半島である。

正午に再び集合し、桂島をバックに写真撮影を行った。その後、歩いて駐車場まで戻って解散した。駐車場に戻る途中、たくさんのハマビワが果実になっているのを見つけた。私は今回初めてハマビワを観たので興奮して、思わず果実を口に入れてみた（他の人はこれからフェリーに乗るからと言って私の様子を確認していた）。ハマビワの果実の味は、さっぱりとした甘さで非常に美味だった。その後私のお腹はいたって元気だったので、みなさんも是非ご賞味あれ。

もう少し、島根半島を皆さんと一緒に植物を観察しながら回りたかった。名残惜しい、の一言であった。こんなにたくさんの植物屋さんや地質屋さんや地質屋さんに囲まれて、色々教えていただきながら自然を観察することができて、本当に面白かった。島に入るや否や岩場に張り付いて植物を観察する方や、まるできれいなモデルさんを撮るかのよう三脚を出して植物を撮る方や、目をキラキラさせながら植物を観察する皆さんを見て、私は格好いいなと感動した。皆さんのセンスオブワンダーを是非引き継いでいきたい。

オプションツアーで隠岐に行く人々は境港へ向かい、その他は松江駅や空港に向かった。オプションツアーに参加される方が意外と多く、みなさんがこれからの島旅を楽しみに意気揚々とされていた。隠岐にはセリ科エゾノヨロイグサがあるようだ。みなさんにそれを是非とも観てきて欲しいと、想いを託して別れた。（どうやら結局無かったようであるが…）

後日談ではあるが、島根から帰ってきて日も浅いうちに、今度は信州と上越へセリ科の調査に行った。信州は10℃を下回る天候でまだまだ寒く、タニウツギやヤブデマリが咲いていた。私はすっかり島根の余韻に浸っていたので、軽装で調査に臨んでしまい、かなりつらかった。やはり島根は暖かかくておだやかで良かったなあと、再び島根に思いを馳せた。

最後に、エクスカージョンを企画運営し、案内してくださった三浦さまや井上さま、途中私にたくさんの知識を伝授してくださった参加者のみなさまには心から感謝しております。素敵な時間をありがとうございました。

(金沢大学大学院 池嶋美佳)



桂島で植物観察中の参加者